

3. いま暮らしているところは、本当に災害に強いところですか？

長いことここに住んでいるが、これまで災害に逢ったことがないし、これまでの震災でも被害がなかったし、災害のことはほとんど聞いたことがないので、安全なところだと思っているという話をよく聞きます。しかし、長い間といっても一人の人生は多く見ても100年程度ですので、災害史から見れば一瞬のことになります。まして、最近は気象環境も変わり、様々な社会の構造が変化している中でどのような災害が発生しどのような被害があってということは想定を超える可能性があります。災害の発生自体が社会のグローバル化とともに情報化社会になったために遠くのことでも大きな波となって襲ってくるという時代です。まさに、風が吹けば桶屋が儲かるという想像以上のことが身の回りに起きてきます。つまり、自然現象が暴走化し自然災害がこれまでと異なるぐらいに激変してくる時期に入っているようです。

わたしたちは先人を含めて、自然現象によってさまざまに変化する大地で生活してきたわけで、長い目で見ればもともと安全な場所自体が存在するわけではありません。つまり自然の恩恵を上手に利用して共生してきたとも言えますが、逆に自然のサイクルを変えてしまうような利用の度が過ぎると災害のもとが拡大するということかもしれません。例えば、農産物は気象と土壌に支配されますので、最も生育に適したところを選択してきました。リンゴなどは土石流によって形成された透過性の良い扇状地が利用されてきました。緩やかな地形とその広大さは見事です、そのような地形の形状だけに注目して都市部の宅地として開発されたりします。実は地形の形状に災害のリスクが潜在していることが少なくないのです。例えば、豪雨などによって、そのリスクが顕在化して背後からの土石流や谷埋め盛土の流失というようなことが起きて初めてその自然現象に畏怖を感じますが、まさに手遅れとなってしまう。もちろんどこもかしこも危険なところではありませんが、災害への関心は持つべきだというのがこの日本列島で暮らしているものにとっては宿命でもあります。自然現象そのものが、暮らしていく上で災害にもなり恩恵も同等に受けているということも頭に入れておきたいところです。自分の住んでいるところは絶対に安全だとは思ってはいけませんし、周辺にはリスクがあるということも忘れてはいけません。そのためには地域を様々な面から知ることがとても大事なことになります。

地域はもともとどんな地形でどんな土地利用がされていたのか、災害の記録がないのかなどを知っておく必要があります。記録は文書だけでなく石碑や言い伝え、神社などの建立などからも知ることができますので、ぜひ地域の方々がそのような話を聞く機会を作ってほしいと思います。そのようなところには景色は変わっても災害のリスクは眠っています。大きな自然現象で目をさまし大暴れするという可能性もあります。利便性が高い、開発しやすいところには思わぬ伏兵がいます。これまで利用されていなかったところにはそれなりの理由があるのです。例えば地盤が軟弱であったり、洪水常襲地帯だったり土石流の堆積物だったりということが多く、もともと安定した地盤とは言えなかったところもあります。地域知に関心を寄せて備えることを忘れてはいけません。